

ごみ減量化大作戦 -ごみの分別にご協力ください-



資源物を出すときの注意

缶類、ビン類、紙類の日の共通事項

- 袋から出して、指定のかごに入れてください。



衣類は、袋に入れ濡れないように口をしっかり縛って出してください。



- 缶やビンは、中身を空にして軽くすすぐなど、内容物が残らないようにしてください。特に缶詰などは、内容物が残りやすいので注意してください。



- 必ず朝 8 時までに出してください。

ポイント 資源物の収集は、同じ集積所を数回収集に回ります。



例（缶類の日）

- ①アルミ缶を 1 号車で収集します。
- ②スチール缶を 2 号車で収集します。
- ③ペットボトルを 3 号車で収集します。
- ④白色トレイ、その他のプラスチックを 4 号車で収集します。

※収集作業は1日かかります。
1回の収集で、すべての品目は収集できません。
1度収集したものは、2回目以降は収集しません。



缶類の日の注意点

- リサイクルマークを確認して、分別してください。
- ペットボトルは、キャップとラベルを取ってください。
- その他プラスチックで出せるカップラーメンの容器には、紙製の容器がありますので、リサイクルマークを確認してください。



紙類の日の注意点

- 片手で持てる程度にひもで縛りましょう。



- 禁忌品に注意してください。

再商品化できなくなりますので、「可燃ごみ」に出してください。



レシートなどの感熱紙、宅配便の伝票などの伝票などのカーボン紙
洗剤、線香の箱など臭いがついている紙
写真（印画紙、インクジェット紙で印刷したもの含む）
水や油を吸った紙、使ったタオルペーパーなど、汚れた紙

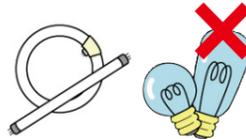
ビン類の日の注意点

- 一升ビンは「酒ビン」に限ります。「酒ビン」以外は色分けして出してください。
- 一升ビン、ビールビンは、欠けていないものに限ります。
- ビンに貼られているシールは、剥がさないでください。
- 色（透明、茶色、他の色）の分別を徹底してください。



有害ごみの注意点

- 蛍光灯は割れていないものです。白熱電球、LED電球、割れてしまった蛍光灯は、不燃ごみに出してください。



ごみを出すときの注意



- 可燃、不燃、粗大ごみ、資源物などの分別をしてください。
- 生ごみは水分をしっかり切って出してください。

生ごみの水分を切るだけで、可燃ごみの約10%が削減できる結果も出ています。水分を切ることにより、経費削減、悪臭防止、集積所の衛生管理など、多くの効果があります。

- 草・せん定枝などは、しっかり乾燥させて出してください。

草やせん定枝などは、乾燥させれば減量になるだけでなく、焼却の際の燃焼効率もよくなります。しっかり乾燥させて出しましょう。
※1回で出せるのは、1軒につき5袋（5束）以内です。
※せん定枝は、長さ50cm以下、太さ10cm以下にしてください。



- ごみ袋は、透明または半透明の物を使用し、口をしっかり縛ってください。
- 水銀使用製品は、生活環境課窓口
に直接持参してください。



入っている物がわかりません。



- 可燃性の高いガス燃料、スプレー缶、ライターなどは、ほかの不燃ごみと分けてわかるようにして出してください。



▲これらが原因と思われるごみ収集車両の火災が毎年のように発生しています▲

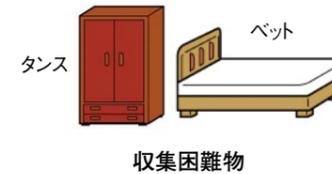
- 家電リサイクル法やPCリサイクル法対象品目は、制度に基づきリサイクルしてください。

家電リサイクル法対象品目の冷蔵庫、冷凍庫、テレビ、洗濯機、衣類乾燥機、エアコンは、購入店か引き取り協力店に問合せください。
PCリサイクル法対象品目は、お持ちのPC製造メーカーに直接問合せください。不明な場合は、右記に問合せください。



(一社)パソコン3R推進協会
☎03-5282-7685

- 収集困難物は直接環境センターに搬入し、適正処理困難物は直接専門業者に依頼してください。



収集困難物



適正処理困難物（環境センター不可）

CONTENTS

- 2 ごみ減量化大作戦 -ごみの分別にご協力ください-
- 6 市の財政状況をお知らせします
- 8 市民のページ
- 10 ヒアリかな?と思ったら...
- 10 ゆうき図書館からのお知らせ
- 11 ひとの人権わたしの人権
- 11 男女共同参画社会
- 12 国保Q&A
- 12 けん口広場2017
- 12 葉
- 13 元生きたより
- 13 市民健康教室
- 14 つくば地域圏入りナンバープレートに関するアンケート投票を実施します
- 15 魅力ある市内企業をPR 企業紹介

表紙の写真



「ごみの分別をお願いするっ★」

市役所職場体験で茨城県立結城第一高等学校の生徒が、資源物の分別作業をまげつたと一緒に行いました。